
遊戯王GX～パラレル・トラベラー～

カイナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX〜パラレル・トラベラー〜

【Nコード】

N4694Z

【作者名】

カイナ

【あらすじ】

デュエルモンスターズが好きな双子の少年ライとアルフ、その幼馴染である少女エルフィ、ライとアルフの両親であるレオとメリオル。五人は偶然一緒になった帰り道、泥酔して線路上に落っこちてしまった美女と青年を助けるため線路に下りるが間に合わず進入してきた電車に轢かれかけ、その瞬間五人の意識がなくなる。それから彼らがいたのはどこもしれぬ空間、そこに立っていた美女。神によれば五人はもとの世界では死んでしまい、元の世界に戻る事は出来ないがせめてものお詫びにと別の世界で新たな人生を歩む事

を提案される。

これは五人が遊戯王GXの世界に転生し、その子供達がそこに住む者達と繰り広げるストーリー！。

ブローグ

とある地下鉄の駅、夕方とも言える時間帯に三人の少年少女がここで電車を待っていた。

「いやー、楽勝楽勝。今回も優勝しちゃったね。やっぱり俺らは最強のトリオだ!」

「兄さん、油断してたら足元掬われるよ」

「そうそう。あなた一人で三人抜きしたのもあつたけど手も足も出ずにやられて私達がフオローしたのも多かつたわよね」

黒い髪をざつくばらんな短髪にしている元気な少年がけらけらと笑いながら口を開くとその隣に立っている、こっちは水色の髪を短く切って整えている少年が黒髪の少年を小突きながら言い、その逆横に立っている、金髪をボーイッシュな短髪にした少女がクスクスと笑いながら続けると黒髪の少年はたはたと笑う。

「まったく、相変わらずだなお前らは」

するとその背後から妙に呆れたような笑いながららしい声が聞こえ、三人は振り向く。と黒髪の少年と水色髪の少年が驚いたような顔を見せる。

「父さん! 母さん! なんでここに?」

そこに立っていたのは黒髪をざつくばらんな短髪にしている男性
丁度黒髪の少年をまんま大人にしたような外見、違いといえば少

年の瞳が水色なのに対し男性の目は黒いというところくらいかと水色の髪をポニーテールにしている女性。すると男性が笑った。

「仕事帰りだ。残業頼まれそうになったが逃げ出した」

「全くもう、クビになったらどうするの？……で、私は晩御飯の材料買出し。今晚はカレーよ」

男性の笑いながらのあっさりした言葉に女性は呆れたように笑いながら返した後エコバックの中にあるカレールーやニンジンなどの野菜を見せてそう続ける。それに少年二人はやたつと声を出した。

「おっし、もう一軒行くぞー」

「……もう、帰ろ……」

すると彼らの横に青年と女性　青年の方は薄緑色の髪を短髪にしており、女性の方は健康な葉っぱのような濃い緑色の髪を長く伸ばしている　が現れ、女性は明らかに酔っているとわんばかりに真っ赤な顔で声を出しており、彼女を支えている青年　こちらも飲んだのか顔が赤い　は必死で女性を支えながらそう声を絞り出す。するとその次の瞬間青年の膝がガクンと折れ、二人の身体が線路上に落下する。

「やべえ！？」

「レオ！？」

それを見た瞬間男性　レオはすぐに鞆をそこに放り捨てて線路に

降り、それに習うように四人も線路に降りる。

「おいあんたら、大丈夫か!？」

「うゝ……」

「うぷ……」

レオが声をかけるが女性も青年も意識が混濁しているような状態、それを確認するとレオはホームを見上げて声を出した。

「運び上げるので上空けてください！ それと駅員さんに連絡お願いします！」

その言葉を聞いた他の人達はその場を退き、何人かはどこかに走っていく。それを見るとレオは線路に降りた身内達を見た。

「ライとアルフ、エルフィはこの子を、俺とメリオルで女性を引き上げるぞ」

その言葉に四人はうんと頷き黒髪の少年　ライ、水色髪の少年　アルフ、金髪の少女　エルフィは青年の両手両足を持って彼を持ち上げ、レオとメリオルは女性を持ち上げる。その瞬間、プーンという音とともに眩しいライトが彼らを照らし出した。

「げっ!？」

電車が来た、駅員への連絡は間に合わなかったのか、一行はそんな事を考えるがもう酔っ払いの救助どころか自分達が逃げる事すら間に合わない。そう考えながら五人＋酔っ払い二人は白い光に包まれていった。

「てめえは本当に！　どれっただけ人に迷惑かけたら気が済むんだ！？」

「う……」

「いやーあはは、反省してるって……」

「なん、だ？……」

怒り心頭とばかりの怒号に飄々としたような謝罪の声、それらを聞いたレオは目を覚まし、起き上がる。

「ここは？……」

見渡す限り真っ白、これだけを聞くと雪に囲まれた場所でも想像するかもしれないが本当に真っ白、無機質な感覚すら思わせるような場所だ。レオがそう考えている間に周りで気絶していたメリオル、ライ、アルフ、エルフィも目を覚まし、前の方で女性に説教を行っている青年もそれに気づいた。

「ああ、目が覚めたか」

「あんたらはさっきの酔っ払い……あんたら、何者だ？」

青年の言葉にレオは用心深い様子を見せながら返し、それを聞いた

青年は困ったように頭をかくと女性の方を見た。すると女性はうんと頷いて彼らの前に立つ。

「私達は……まあ、あなた達人間の言葉で言えば私は神、彼は天使という表現が正しいわね」

「か、神様に天使……ねえ」

女性の言葉にメリオルは驚いた様子を見せるが直後何か言いにくそうな表情を見せる。と天使と表現された青年がため息をついた。

「言いたい事は分かってる。仮にも神と呼ばれる存在が街中で酔っ払って電車に引かれかけるような真似するかとでも言いたいんだろ？」

「あ、いや……」

「事実その通りだ。こいつは神としての自覚が欠如してる、もはや人間で言う俗念に塗れたバカとしか言いようがないからな」

「「「そ、そこまで……」」」

天使の言葉にメリオルが言い繕おうとするが神の部下であるはずの天使自身が神をこき下ろし、それを聞いたライとアルフ、エルフィが引きつった表情でそう呟く。すると神がイラッとした様子で天使に食いかかった。

「一緒に酔っ払ってぶっ倒れたくせに！」

「元はといえばお前が放置していた輪廻転生の管理と魂の天国行き

地獄行き裁判の結果を纏めるために一週間貫徹した上酔っ払ったお前が無理矢理酒飲ませたことが原因だろうが!？」

神の言葉に天使が怒鳴り返すと神はぎくりとばかりのリアクションを取って瞬時に顔を逸らす。それから天使はまた呆れたようにため息をつくとしれオ達の方を向いて口を開いた。

「まあ、何を言おうが俺達のせいであなた方が亡くなってしまったという事実には変わりはない。本当に申し訳ない」

天使はそう言っで深く頭を下げる。するとライがふと口を開いた。

「ん？ これって……」

「あ、ラノベとかでの転生フラグ!」

ライに続けてアルフも声を出す。すると神が笑い声を出した。

「おー子供は鋭い鋭い。流石に私達のせいで死んじやってそのままっていうのは後味悪いからね。どっかに転生させてあげようって思ってるのよ」

「転生か……」

その言葉にしれオがぼそりと呟く、と神は何かを考えるように虚空を見上げて頬に人差し指をやるような仕草をした。

「んー、まあ転生って言ったら語弊があるかな？ 正確に言えば容姿と記憶はそのままに別世界に送るって言う方が正しいね」

「異世界旅行かよ……おいちょっと待て」

続けての言葉にまたレオが返す、とそこで気づいたようにここに送られてきた一人 エルフィを見た。

「俺達四人は家族だから良いが、エルフィは戸籍上他人だぞ！？
どうする気だ！？」

「まあ、将来夫婦になる予定だけど」

レオの言葉にライとエルフィが聞いてる方が恥ずかしくなるような台詞をさらつと言い、それにアルフとメリオルが呆れ顔でため息をつく。と神は「ああ」と声を漏らした。

「……ね、なんとかなんない？」

「俺に聞くな……そうだな……エルフィ、と言ったか？ 話を聞く限りだが身内にするのは問題がありそうだな。なら、従姉弟が同居しているという事にすればどうだ？ 戸籍調整はこっちでどうにかする」

「出来るのか？」

「こいつはバカだがまがりなりにも神だ。それぐらいは造作も無い」

天使の提案にレオが聞き返すと天使は神を指差しながらさらつと返し、それに神は複雑な表情を見せる。それから天使は少し考えた後また口を開いた。

「それじゃ、あなた達にはどの世界に転生すればいいか考えるが、

希望があれば聞こう。せめてものお詫びだ、なるべく期待に沿うようにするよ」

「転生させんの私なんだけど」

天使の言葉に神が愚痴るが天使はシカト、それを聞いたライは少し考えると右手を挙げた。

「なあ、じゃあ遊戯王の世界は駄目か？ 俺達デュエルモンスターズが好きなんだ」

「確かに、今日も大会で優勝したってはしゃいでたな。もしその世界に行くなら俺達夫婦もデュエルモンスターズに関わる仕事に就かせてもらっていいか？」

ライの言葉にレオがふつと笑いながら返した後そう尋ね、それに天使は少し考えるとああと頷いた。

「分かった、じゃああなた達の世界で言う遊戯王の世界に転生させよう。だがどの時代に行けるかまでは分からないから、その点は許してくれ」

「別にいいよそれくらい。楽しみにしておくからさ」

天使の言葉にライが笑いながら言う天使も思わず笑みを浮かべる。すると今度はレオが手を挙げた。

「ちょっと待ってくれ、こっちからも一つ頼みがある」

「ん？」

「俺達全員の年齢を五歳でいい、若返らせてくれ。物語の主役は子供達だ。俺達大人は五年の歳月でこいつらが戦えるように立派な裏方になってやるよ」

レオの提案に天使は驚いたように目を丸くする、がやがて目を細めるとくつくつと笑った。

「分かった。任せておけ」

「だーかーらー！ 実際にその作業すんの私なんだけどー！？」

天使の言葉に神が叫び声を上げるがやっぱリシカト、神はぶっすーと頬を膨らませると諦めたようにその旨を了解した。

「分かったわよ。転生転移先は遊戯王の世界、容姿性別はそのままで年齢は五歳若返らせる、ね。まあ頑張ってみるわ……女神エデン、ちよつとばかり本気出してやるわ」

神 エデンは立ち上がると一行を見据えて不敵な笑みを浮かべ、彼女が両手を広げると一行を包み込むように光の魔法陣が敷かれる。

「んじゃ、お達者でー」

「おう！」

エデンの言葉にライは元気よく右手を挙げて返し、レオはふつと笑うと腕組みをする。それらを見ながらメリオル、アルフ、エルフィも笑みを浮かべていた。

「転移転生、開始！」

その言葉と共に彼らの視界は光に包まれていき、
彼らの意識も消えていった。

プロローグ（後書き）

ふゝ。遊戯王Xに続いて遊戯王小説、今度はGXトリップものです。レオ「さて、今回はどんなプレイングミスが飛び出すかな？」

ミスすんの前提！？ それ酷くないか！？

レオ「一話に一回プレイングミスが出てる前作だ。まあ期待はしない」

うつせーやい……ちなみに今回の主役は前作で脇役だったライとアルフ、エルフィ。ああちなみに言っておくと今回はレオとメリオルが夫婦、ライとアルフはその子供で双子の兄弟となっていますが、これが彼ら本来の関係なんですよね。エルフィに関しては……まああんまり触れないでください。

レオ「まあ初期の設定が設定だからな」

さてさてGXの世界で彼らはどういう生活を繰り広げるのやら、です。じゃ今回はこの辺で。それでは。

第一話 入学試験デュエル

ある五人の一般人を取り囲む平凡な日々、それはとある夕方の地下鉄の駅で終わりを告げていた。そこで線路に落つこちた酔っ払いを助けようとして電車に轢かれてしまったが実はその酔っ払いは神様であり自分のせいで死んでしまった責任から彼らは容姿性格はそのままに遊戯王の世界へと転生する。それから五年の歳月が過ぎた……。

ここはごく普通の庭付き一戸建ての一軒家の庭。ここで男性と少年がデュエルを行っている。

「レベル3のハウンド・ドラゴンにレベル3のチューン・ウォリアーをチューニング！ シンクロ召喚、現れる！！」「大地の騎士ガイアナイト」！！！」

「げえっ！？」

黒髪黒目の男性がそう口上を上げると共に一人の戦士は三本の光輪へと、一体の竜は三個の星へと変化して重なり合い、その輪の中心から光が放たれると男性の場に人馬一体と化した騎士が姿を現し、男性と対峙している少年　男性とよく似た顔立ちをしており違いといえば瞳の色が水色というぐらい　は絶叫を上げる。

「ガイアナイトでニユートを攻撃！　ガイアランスシュート！！！」

「ぎゃああああああっ！！！」LP500　0

男性の場に現れた騎士が少年の場の悪魔を貫き、その衝撃が少年のライフを削り取り止めをさす。そして少年はがくと膝をつく和我

慢出来ないように声を荒げた。

「ずるいよ父さん！ こっちの世界にはまだシンクロモンスターは一般流通してないのに！！！」

「これが、カードテストプレイヤーの権力ってもん」
「なわけないでしょっ！！！」

少年の声に彼の父親である男性が笑いながら言っていると突如そんな怒号が響き渡り彼の頭にフライパンがぶち当たる。

「はぐっ！？」

「ったくあんたはまたテスト中のカードを勝手に持って帰ってきて！ 守秘義務守りなさいよ！！」

「あつたたたた……メリオル、んな硬いこといわなくても別にいいじゃねえか少しぐらい……」

「レオだけが怒られるならまだしも妻である私も同時に怒られるのよ！？ 面倒事出さないでよ今がシンクロモンスターの一般流通に大事なところだから！！」

フライパンを無防備にくらった男性　レオが悲鳴のような声を出す
と家の中から女性　水色の髪をポニーテールにしており、端正な顔は怒り心頭とばかりに眉が吊りあがっている　が出てきてその怒号を上げ、レオが頭を押さえながら呟きそう言っているとメリオルはまた怒号を上げる。すると少年　ライはさっきの衝撃でレオのデュエルディスクから落ちたガイアナイトのカードを拾う。

「それにしても、転生先って5D'sじゃないのにシンクロモンスターとか出して大丈夫なのかな？」

「あゝ、デュエルアカデミアのホームページを見る限り見事にGX時代どストライクだよな」

ライの言葉にレオは先日パソコンで見たデュエルアカデミアのホームページを思い出しながら返す、とメリオルはくすりと小悪魔のような笑みを浮かべた。

「大丈夫よ別に。私はちょっとしたお酒の席で“低レベルのモンスターを組み合わせることで高レベルのモンスターを召喚するシステムって面白くないですか？”って酔っ払って零しただけだもん。それが偶然pegasus会長のお耳に届いて、シンクロモンスターの概念が生み出された。それ、だ、け。まあ一応スターダストやレッド・デーモンズとかの5D's時代のキーカードは作らせないよう注意してるから安心してね？ 一般的なシンクロモンスターならともかくそれが量産されたら後々どういう弊害が起きるか分からないし、流石にそれはまずいからね」

((……性質悪いな……))

「何か言った？」

「「いえ、何も……！」」

メリオルはあっけらかんとした様子でそう言い、最後に悪戯っぽく微笑んで小首を傾げながら続ける。それを聞いた父と子は心中で呟くがメリオルが何かを察知したとばかりに尋ねると二人は異口同音で返した。

「さーてと、シンクロモンスターが流通した後はエクシーズモンスターね。どういう風に提案しようかしら？ ハートランドがこの世界と同じ世界観なのか知らないけど、まあタッグフォースもそうだったんだしNo.を流通させても大丈夫よね。まあ何にせよこっさりさりげなくしないかね……」

メリオルはくると踵を返すと策を考える軍師のような表情でどことなくあくどさを感じさせる笑みを浮かべながら家の中に戻って行き、レオとライは顔を見合わせるとはあとため息をついた。

「「ただいまー」」

「あ、アルフとエルフィだ。おかえりー」

玄関の門の方から聞こえてきた声にライはそう返し、少年と少女

少年の方は水色の髪を調えた形で短髪にしており、一見すれば女性にすら見えるような中性的な顔立ちをしている。少女の方は金髪碧眼でその髪はボーイッシュな短髪に切り揃えられている。が庭の方に来た。

「またデュエルしてたの？」

「ああ。父さんシンクロモンスター使ってきてさ、負けた」

「……レオさん、ああ今は叔父さんだっけ……大人気ないですよ？」

少年　アルフにライが肩をすくめながら言々と少女　エルフィが呆れたような目をレオに向ける。それにレオがふうと息をついた。

「エルフィが姪か……なんか妙だな、まあ転生前も家族ぐるみの付き合いだったか」

「私皆と比べて大分乱暴に放り込まれたわよね……私の両親は電車の事故で死んでしまつて、親戚であるここ空時家に引き取られたつて設定だもん。私の名字も空時になつちやつてるし」

レオの言葉にエルフィが乾いた笑い声を出しながら返す。

「ほんとに悪いな、この世界に容姿年齢ほとんどそのままに転生させるとしたらこれが精一杯だったんだ」

「どわっ！？ 天使か、驚かせるなよ……」

さらなる突然の声にレオがびくつとなりながらそつちを見ると、そこには彼らがこの世界に転生する事になった原因の一人である天使が立っており、レオは驚いたように息を吐きながらそう返す。

「さて、いよいよ転生してから五年だな。明日子供三人はデュエルアカデミアへ実技試験とやらを受けに行くんだろ？」

「おう！ 目指せ合格、目指せラーイエロー！」

「ま、原作を辿るならオシリスレッドの方が面白そうだけどね。遊城十代君と同学年になれるみたいだし」

「私は女子だからオベリスクブルー決定ね。こういう風になるのか楽しみだわ」

天使の言葉にライが元氣良く言うത്とアルフもくすくす笑いながら返し、エルフィもふつと笑つてそう返す。それを見てから天使はレオを見た。

「あなた方もインダストリアル・イリユージョン社にテストプレイヤーとカードデザイナーとして就職させましたけど、何か不都合は？」

「あーいやいや、結構いいとこ出て就職した事になってるし、庭付き一戸建ての家まで貰っちゃって悪いぐらいだよホント」

「この家に関してはお詫びだから気にしないでください……じゃ、こっちから干渉するのは基本的にこれが最後って事で。後はそっちの方で物語を紡いでください」

「おう！」

天使の心配そうな声にレオは右手を横に振りながら笑って返し、それに天使は軽く会釈をして返した後そう続け、それにライが元氣良く答える。それを天使は一瞥すると柔和に微笑んだ。

「それじゃ、あなた達に大いなる加護がありますように。それでは」
そう言い終えると同時に天使の姿はふっと消える。それを見送った後レオは三人の子供の方を振り返った。

「それじゃ、デュエルアカデミア実技試験頑張れよ。ところでお前ら、原作知識は？」

「流石に五年だもん、大雑把にキャラ設定を覚えてるくらい。GX時代って分かったのもついこの前だし」

「僕も話の流れは大分曖昧になってきてるよ」

「右に同じく」

レオの言葉に子供三人は肩をすくめる、するとそれにレオはふつと笑った。

「それでよしだ。俺達というイレギュラーがある以上原作その通りに進むわけないからな。第二の人生だ、しっかり楽しんで来い。俺達も裏方でカード作って援護するからよ」

「皆ー、ご飯できたわよー。ライとアルフ、エルフィは明日に備えて早くご飯食べてとつと寝なさいねー」

レオの激励の言葉が終わるとメリオルの呼びかけが聞こえ、四人はそれを聞くと「はい」と返して玄関から家の中に入っていった。

それからその翌日、三人は家のドアをバンと開けるとドドドドと地響きが発生する勢いで突っ走る。そしてアルフが怒号を上げた。

「このバカ兄貴！！！寝坊はいつもの事だけどなんでよりによって実技試験当日にまで寝坊するのさ！！??」

「もー！ライを叩き起こすのに大分時間浪費しちゃったわよ！！」

「だーかーらー、悪かったって言ってんじゃん！」

アルフとエルフィの声にライは全速力で走りながらも両手を合わせて謝る、そんな事をしていながらも三人は僅かにスピードを落とす事すらしていなかった。そして三人は試験会場に到着すると息を荒げながら受付を行うと会場に入場する。それから試験が始まり、最初に受験番号一番の人が呼ばれ、デュエル場に立つ。それから受験番号十番までの人がデュエル場上がった。

「あ、あれ三沢大地だ」

「原作通りなら合格は確定ね。さてと、私達もデッキの確認しておきましょう」

ライが笑みを浮かべながら言うとエルフィはふふつと笑いながら返し、デッキケースからデッキを取り出して確認を始めると二人もそれに習ってデッキの確認を始めた。それから少し時間が経った時だった。

「試験番号29番！」

「あ、私ね。じゃあ行ってくるわ」

「頑張れよー」

試験官の声にエルフィは気づいたようにデッキを纏めてデュエルディスクに収めると二人に軽く手を振って言い、ライの言葉にこくと頷くとデュエル場に向かう。試験官は黒いサングラスをした教師だ。

「試験番号29番、空時エルフィです。よろしくお願いします」

「うむ、今出来る全力でかかってきなさい」

エルフィが礼儀正しく礼をして名乗ると試験官もうんと頷いてそう返し、二人はデュエルディスクを展開する。

「「デュエル!!!」」

「先攻は貰います。ドロー！」

掛け声の直後エルフィが素早くそう言っただけからカードをドロし、ちらりと手札を見るとその内の一枚を手についた。

「私は「豊穰のアルテミス」を守備表示で召喚！ カードを二枚セツトしてターンを終了します」

豊穰のアルテミス 守備力：1700

豊穰のアルテミス

効果モンスター

星4 / 光属性 / 天使族

攻撃力1600 / 守備力1700

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、カウンター罠が発動される度に自分のデッキからカードを1枚ドロウする。

エルフィの場に豊穰の名を冠する天使が守りの体勢で姿を現し、その後ろに二枚のカードが伏せられた状態で姿を現す。それからエルフィはエンド宣言を行った。

「ふむ、【エンジェル・パーミッション】と言ったところでしょうか？ 私のターン、ドロー」

「リバーiscard、オープン！ カウンタートラップ「強烈なはたき落とし」。ドロウカードをそのまま墓地へ捨ててください。そしてカウンタートラップの発動によりアルテミスの効果が発動、カードを一枚ドロウします」

強烈なはたき落とし

カウンター罠

相手がデッキからカードを手札に加えた時に発動する事ができる。
相手は手札に加えたカード1枚をそのまま墓地へ捨てる。

「むう……」

試験官はエルフィのデッキ内容を予測しつつカードをドロー、するとエルフィは伏せていたカードを発動しそれを見た試験官は残念そうな顔をしながらドローカードを墓地に捨て、エルフィは逆にカードをドローする。

「ならば……私は^{チエーンソー・インセクト}「電動刃虫」を攻撃表示で召喚、バトルを行います！ 電動刃虫で豊穣のアルテミスを攻撃！」

電動刃虫 攻撃力：2400

^{チエーンソー・インセクト}
電動刃虫

効果モンスター

星4/地属性/昆虫族

攻2400/守0

このカードが戦闘を行った場合、ダメージステップ終了時に相手プレイヤーはカード1枚をドローする。

「リバーズカードオープン！ カウンタートラップ」攻撃の無力化

「！ 攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了。そしてカウンター
トラップの発動によりアルテミスの効果でカードドロー！」

攻撃の無力化

カウンター罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手モンスター1体の攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。

巨大な顎がチェインソーになっている昆虫が現れ、アルテミス目掛けて顎を突き出す。その攻撃は不思議な障壁に阻まれてしまい不発に終わる。そしてエルフィは豊穡の力でカードをドロウした。

「やりますね……私はカードを二枚セットし、ターンを終了します」

「私のターン、ドロー！」

試験官は手札のカードを二枚伏せるとターンを終え、それを聞いたエルフィはカードをドロウする。するとその瞬間試験官が動いた。

「リバースカードオープン、永続罠「スキルドレイン」を発動します！ ライフ1000ポイントをコストに発動し、フィールド上全ての効果モンスターの効果を無効とします！」 LP 4000 3000

スキルドレイン

永続罠

1000ライフポイントを払って発動する。

このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド上に表側表示で存在する効果モンスターの効果は無効化される。

「うつ……」

試験官が発動したトラップを見たエルフィは嫌そうな顔をする。これではカウンタートラップを使った時のアルテミスを始めとした防衛天使の効果が使えない。

「……エンジェルセイント「天空聖者メルティウス」を守備表示で召喚し、カードを一枚セットしてターンを終了します」

天空聖者メルティウス 守備力：1200

エンジェルセイント
天空聖者メルティウス

効果モンスター

星4 / 光属性 / 天使族

攻1600 / 守1200

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、カウンター罠が発動される度に自分は1000ライフポイント回復する。さらに、フィールド上に「天空の聖域」が表側表示で存在する場合、相手フィールド上に存在するカード1枚を破壊する。

エルフィの場に新たな防衛天使が姿を現すが、その真価は試験官のカードによって封じられたままエルフィはターンを終了した。

「私のターン、ドロー。私は「ゴブリン突撃部隊」を攻撃表示で召

喚し、バトル！ 電動刃虫でアルテミスを、ゴブリン突撃部隊でメルティウスを攻撃！」

ゴブリン突撃部隊 攻撃力：2300

ゴブリン突撃部隊

効果モンスター

星4 / 地属性 / 戦士族

攻2300 / 守0

このカードは攻撃した場合、バトルフェイズ終了時に守備表示になり、

次の自分のターンのエンドフェイズ時まで表示形式を変更する事ができない。

「くっ……この戦闘による発動カードはありません、よって二体のモンスターは破壊されます」

電動刃虫のチェインソーとなった顎が豊穡の天使を斬殺し、ゴブリンの大群が天空聖者を滅多打ちにする。幸い二体の天使は守備だったためダメージは通らなかったもののエルフィの場は全滅だ。

「よし、バトルフェイズを終了しメインフェイズ2に移行します。一応説明を挟みましょう、電動刃虫は戦闘を行ったダメージステップ時に相手に一枚のカードドローを許す効果がありますがそれはスキルドレインによって無効化されます。そしてゴブリン突撃部隊は攻撃を行ったバトルフェイズ終了時に守備表示に強制変更する効果があります。これもまたスキルドレインによって無効となります。メインフェイズ2、私はカードを一枚伏せてターンを終了します」

簡易状況説明

エルフィ：LP4000 手札四枚

フィールド：モンスターなし 伏せカード一枚

試験官：LP3000 手札一枚

フィールド：電動刃虫、ゴブリン突撃部隊全て攻撃表示 スキルドレイン発動中、伏せカード二枚

試験官の場に新たなカードが伏せられる。それらの様子をライとアルフは観客席に当たる席で見守っていた。

「やばそうだね、エルフィ」

「まあな。手札は大分温存してるし……きっと次あたり来るぜ？」

アルフの言葉にライは不敵な笑みを浮かべながらそう言い、それにアルフはふっと笑って返すと二人はエルフィの方を見直した。

「私のターン、ドロー」

「この瞬間、先ほど伏せたりバースカードを発動します！ 永続罫「最終突撃命令」！ 全ての表側表示モンスターは攻撃表示になり表示形式の変更を行いません！」

最終突撃命令

永続罫

このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド上に存在する表側表示モンスターは全て攻撃表示となり、表示形式は変更できない。

エルフィがカードをドローすると試験官はさっきのターン伏せたカードを発動、それによりエルフィは守備をも封じられてしまった。

「手札から「強欲な壺」を発動し、その効果でカードを二枚ドロー！ よし。手札から速攻魔法「サイクロン」を発動！ その効果でスキルドレインを破壊します！」

強欲な壺

通常魔法

自分のデッキからカードを2枚ドローする。

「むうっ！」

エルフィの発動したカードから放たれた竜巻がモンスターの効果を封じるカードを木っ端微塵に砕き、それに試験官はむっと声を出す。その次の瞬間エルフィの背後に城が出来上がった。

「そして永続魔法「神の居城 ヴアルハラ」を発動！ 私の場にモンスターが存在しない時、一ターンに一度だけ手札から天使族モンスターを一体特殊召喚出来る。私は「アテナ」を特殊召喚！」

アテナ 攻撃力：2600

「なんと!？」

サイクロン

速攻魔法

フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を選択して破壊する。

神の居城 - ヴアルハラ

永続魔法

自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、手札から天使族モンスター1体を特殊召喚する事ができる。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

神の住まう城から最上級天使 アテナが姿を現す。それからエルフイはもう一枚手札を取った。

「そして「勝利の導き手フレイヤ」を召喚! フレイヤは私の場の天使の攻撃力、守備力を400ポイント上昇させます! そしてフレイヤを召喚した時アテナの効果発動! 天使が召喚、反転召喚、特殊召喚された時相手に600ポイントのダメージを与える! ジヤッジメント・レイ!」

「ぐうっ!」 LP 3000 2400

アテナ 攻撃力: 2600 3000

勝利の導き手フレイヤ 攻撃力: 100 500

アテナ

効果モンスター

星7 / 光属性 / 天使族

攻2600 / 守800

1ターンに1度、「アテナ」以外の自分フィールド上に表側表示で存在する天使族モンスター1体を墓地へ送る事で、「アテナ」以外の自分の墓地に存在する天使族モンスター1体を選択して特殊召喚する。

フィールド上に天使族モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚された時、相手ライフに600ポイントダメージを与える。

勝利の導き手フレイヤ

効果モンスター

星1 / 光属性 / 天使族

攻 1000 / 守 100

自分フィールド上に「勝利の導き手フレイヤ」以外の天使族モンスターが表側表示で存在する場合、このカードを攻撃対象に選択することはできない。

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上に表側表示で存在する天使族モンスターの攻撃力・守備力は400ポイントアップする。

「まだまだいきます！ 永続魔法「コート・オブ・ジャスティス」！ 私の場にレベル1の天使が存在する時手札から天使族モンスターを特殊召喚できる。私の場にはレベル1の天使、フレイヤが存在します！」

エルフィの場にさらなる永続魔法が姿を現す。そしてエルフィが手札の一枚を手にとった瞬間フィールドに天から光が差した。

「華麗なる金星よ、この場に降臨し光輝け！」「The splendid VENUS」！！アテナの効果で600ダメージ、ジャジメント・レイ！」

「ぐうっ！」LP2400 1800

華麗なる光を放ちながら華麗なる金星の天使がフィールドに降り立ち、アテナの放った光線が試験官を襲う。そしてVENUS光を浴びた試験官のモンスターが力を失っていった。

「VENUSはフィールドの存在する限り天使以外のモンスターの攻撃力・守備力を500ポイントダウンさせます。そしてフレイヤの効果でVENUSの攻撃力・守備力が上昇！」

電動刃虫	攻撃力：2400	1900
ゴブリン突撃部隊	攻撃力：2300	1800
The splendid VENUS	攻撃力：2800	3200

コート・オブ・ジャスティス
永続魔法

自分フィールド上にレベル1の天使族モンスターが表側表示で存在する場合、手札から天使族モンスター1体を特殊召喚する事ができる。

「コート・オブ・ジャスティス」の効果は1ターンに1度しか使用できない。

The splendid VENUS
効果モンスター

星8 / 光属性 / 天使族

攻2800 / 守2400

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、フィールド上に表側表示で存在する天使族以外の全てのモンスターの攻撃力と守備力は500ポイントダウンする。

また、自分がコントロールする魔法・罠カードの発動と効果は無効化されない。

「むううつ！」

「先生、私のデッキを【エンジェル・パーミッション】って言いましてよね？ 残念でした。私のデッキは言わばエンジェル・パーミッションとヴァルハラ混合デッキ。エンジェル・パーミッションで防ぎ、ヴァルハラやコート・オブ・ジャスティスで上級天使を呼び出し攻める。一個間違ったら手札事故で何も出来なくなるけどそうならないように気をつけて構築してますから」

試験官の表情が変わり、エルフィはにこつと微笑んでそう言う。そしてキツとした表情で試験官の場を指した。

「これで終わりです！ アテナで電動刃虫を攻撃！！」

「その攻撃宣言の瞬間リバースカードを発動します！ トラップ発動、「聖なるバリア ミラーフォース」！ あなたの攻撃表示モンスターは全て破壊されます！」

「パーミッションを舐めないでよね！ カウンタートラップ発動」「魔宮の賄賂」！ 魔法・罠の発動を無効にして破壊し、相手は一枚カードをドローする！」

「なっ!?!」

聖なるバリア・ミラーフォース

通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手フィールド上に存在する攻撃表示モンスターを全て破壊する。

魔宮の賄賂

カウンター罠

相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。

相手はデッキからカードを1枚ドロウする。

槍を手に突撃するアテナの前に聖なるバリアが張られるがそれはエルフイが瞬時に発動したカードの力によって消滅し、アテナは槍を構えて電動刃虫の前に立つ。

「くらいなさい、アイギス・スピア!」

「ぐおっ!」 LP 1800 700

「ダメージステップに電動刃虫の効果で一枚ドロウ。これで終わりです! VENUSでゴブリン突撃部隊を攻撃、ホーリー・フェザー・シャワー!」

「うおおおおおっ!」 LP 700 0

華麗なる金星の天使から放たれた聖なる羽がゴブリン目掛けて降り

注ぎ、それが試験官まで貫通してライフポイントを削り取る。それが試験官への止めとなり、デュエル終了を示すブザーが鳴り響いた。

「私の勝ちですね。ありがとうございました」

「ああ、いいデュエルだった」

エルフィはよしと小さくガッツポーズを取った後ぺこりと頭を下げてそう言い、それに試験官もああと頷くとエルフィはもう一度礼をしてからデュエル上を降りていきライ達の待つ席へと戻っていき、二人を見るとにこりと笑みを浮かべる。

「ちょっと危なかったわ」

「嘘こけ」

エルフィの言葉にライがさらつと返し、エルフィはあらつと肩をすくめて返す。それからまた少し時間が過ぎ、放送が聞こえてくる。

「次！ 受験番号47番！！」

「あ、僕だ」

「頑張れよー」

試験官の放送にアルフはそう言って席を立ち、ライがそう言つとアルフはうんと頷いてデュエル場へと向かう。

「受験番号47番空時アルフ！ よろしくお願いします！」

「?……あ、ああ。よろしく頼む、今出来る全力でかかってきなさい」

アルフの言葉に試験官は一瞬首を傾げるが我に返ったように頷くと言、二人はデュエルディスクを構える。

「デュエル!!」

「私の先攻、ドロ―!」

掛け声の直後試験官がドロ―を行い、素早く手札を見るとその内の一枚を手にとった。

「私は「ゴブリン突撃部隊」を攻撃表示で召喚! カードを三枚セツトしてターン終了です」

ゴブリン突撃部隊 攻撃力:2300

「僕のターン、ドロ―」

「リバースカード発動「最終突撃命令」! フィールド上の表側表示モンスターは全て攻撃表示となり、表示形式は変更できません!」

ゴブリン突撃部隊

効果モンスター

星4/地属性/戦士族

攻2300/守0

このカードは攻撃した場合、バトルフェイズ終了時に守備表示になり、次の自分のターンのエンドフェイズ時まで表示形式を変更する

事ができない。

最終突撃命令

永続罨

このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド上に存在する表側表示モンスターは全て攻撃表示となり、表示形式は変更できない。

いきなり永続罨の発動、しかしアルフは慌てる様子を微塵も見せずに落ち着いて手札を見た。

「……僕は「グリーン・ガジェット」を召喚し、効果発動。デッキから「レッド・ガジェット」を一枚手札に加えます。そして手札の「マシンナイズ・フォートレス」と「レッド・ガジェット」を捨てて、墓地から「マシンナイズ・フォートレス」を特殊召喚！マシンナイズ・フォートレスは手札から機械族モンスターをレベル合計が8以上になるよう捨てる事によって手札または墓地から特殊召喚できます」

グリーン・ガジェット 攻撃力：1400

マシンナイズ・フォートレス 攻撃力：2500

グリーン・ガジェット

効果モンスター

星4/地属性/機械族

攻1400/守600

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、デッキから「レッド・ガジェット」1体を手札に加える事ができる。

レッド・ガジェット

効果モンスター

星4/地属性/機械族

攻1300/守1500

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、デッキから「イエロー・ガジェット」1体を手札に加える事ができる。

マシンナーズ・フォートレス

効果モンスター

星7/地属性/機械族

攻2500/守1600

このカードは手札の機械族モンスターをレベルの合計が8以上になるように捨てて、手札または墓地から特殊召喚する事ができる。

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。

また、自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードが相手の効果モンスターの効果の対象になった時、相手の手札を確認して1枚捨てる。

「さらに永続魔法「マシンナーズ・フロントライン機甲部隊の最前線」を発動！そしてバトル、マシンナーズ・フォートレスでゴブリン突撃部隊を攻撃、マシンナーズ・ブラスター！」

「リバーiscardを発動します、速攻魔法「収縮」！その効果によりマシンナーズ・フォートレスの元々の攻撃力を半分にします！」

「!?!」

機甲部隊の最前線

永続魔法

機械族モンスターが戦闘によって破壊され自分の墓地へ送られた時、そのモンスターより攻撃力の低い、同じ属性の機械族モンスター1体を自分のデッキから特殊召喚する事ができる。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

収縮

速攻魔法

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターの元々の攻撃力はエンドフェイズ時まで半分になる。

マシンナース・フォートレス 攻撃力：2500 1250

「これで攻撃力は逆転しました、返り討ちです！」

「くっ！……でも、マシンナース・フォートレスの効果発動！このカードが戦闘によって破壊された時相手フィールド上に存在するカード一枚を選択し、破壊する。それにチェインして機甲部隊の最前線の効果発動、それにより僕はマシンナースの攻撃力2500以下で同じ属性である地属性の機械族「マシンナース・ギアフレーム」を攻撃表示で特殊召喚！そしてチェーン1のマシンナース・フォートレスの破壊効果により僕はゴブリン突撃部隊を破壊します！」

LP4000 2950

「ぐうつ！」

突然マシンナイズ・フォートレスの全長が半分程度に収縮し、その状態で放たれた小さな砲撃にゴ布林突撃部隊の一部が吹っ飛ばされたものの戦闘を行う分には問題なし、一瞬でマシンナイズ・フォートレスを取り囲んでぼこぼこにするがその次の瞬間アルフの場に新たなマシンナイズが姿を現し、そう思ったらマシンナイズ・フォートレスは自爆。ゴ布林突撃部隊を道連れにした。

マシンナイズ・ギアフレーム 攻撃力：1800

マシンナイズ・ギアフレーム

ユニオンモンスター

星4/地属性/機械族

攻1800/守0

このカードが召喚に成功した時、自分のデッキから「マシンナイズ・ギアフレーム」以外の「マシンナイズ」と名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上の機械族モンスターに装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

（1体のモンスターが装備できるユニオンは1枚まで。

装備モンスターが破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する。）

「そしてグリーン・ガジェットとマシンナイズ・ギアフレームでダイレクトアタック！」

「そうはいきません！ リバースカード発動「リビングデッドの呼び声」！ 墓地から「ゴ布林突撃部隊」を攻撃表示で特殊召喚し

ます！」

ゴブリン突撃部隊 攻撃力：2300

リビングデッドの呼び声

永続罫

自分の墓地のモンスター1体を選択し、表側攻撃表示で特殊召喚する。

このカードがフィールド上から離れた時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「つつ！ まき戻しにより攻撃を中止し、リバースカードを一枚セツトしてターンを終了します」

「ふむ、私のターン。ドローです」

アルフは復活した部隊を見て息を飲むと攻撃を中止し、カードを二枚伏せるとターンを終える。それを聞いた試験官はふむと呟いてカードをドローし、それを見た。

「私は^{チェーンソー・インセクト}「電動刃虫」を攻撃表示で召喚！ バトルフェイズに入ります！」

電動刃虫 攻撃力：2400

^{チェーンソー・インセクト}
電動刃虫

効果モンスター

星4/地属性/昆虫族

攻2400/守0

このカードが戦闘を行った場合、ダメージステップ終了時に相手プレイヤーはカード1枚をドロウする。

「ゴブリン突撃部隊でグリーン・ガジェットを攻撃！」

「ぐうつ！ 機甲部隊の最前線の効果を発動！ グリーン・ガジェットの攻撃力1400以下の地属性機械族、「レッド・ガジェット」を攻撃表示で特殊召喚し、レッド・ガジェットの効果発動！ デッキから「イエロー・ガジェット」を手札に加えます」LP2950 2050

レッド・ガジェット 攻撃力：1300

イエロー・ガジェット

効果モンスター

星4/地属性/機械族

攻1200/守1200

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、デッキから「グリーン・ガジェット」1体を手札に加える事ができる。

「ふむ……このターンで倒しきれなくてもなし、何も電動刃虫の攻撃でこれ以上あなたの手札を増やし逆転の可能性を増やす必要もないですね。バトルフェイズ終了、ゴブリン突撃部隊は自身の効果により守備表示に変更されますが、最終突撃命令の効果により直後

攻撃表示に変更されます。私はカードを一枚セットしてターンを終了します」

「僕のターン、ドロー！ よし！ 僕はレッド・ガジェットとマシンナーズ・ギアフレームを生贄に捧げます！」

「なんですと！？」

アルフの宣言に試験官が声を上げる。そして二体の機械が闇に包まれ、巨大な機械の球体がその場に具現する。

「巨大なる土星よ、今こそ汝起動の時！ 来い、「The big SATURN」！！」

その球体の内部からロボットのようには頭が現れ、どこからともなく巨大な両腕が飛んでくる。そして最後に球体の周りに輪が具現した。

The big SATURN 攻撃力：2800

「いきます、SATURNで電動刃虫を攻撃！ アンガー・ハンマー！！！！」

「させません！ その攻撃宣言時にリバースカードオープン」聖なるバリア ミラーフォース」！！ 相手フィールド上の攻撃表示モンスターを全て破壊します！！」

The big SATURN

効果モンスター

星8 / 闇属性 / 機械族

攻2800/守2200

このカードは手札またはデッキからの特殊召喚はできない。

手札を1枚捨てて1000ライフポイントを払う。エンドフェイズ時までこのカードの攻撃力は1000ポイントアップする。この効果は1ターンに1度だけ自分のメインフェイズに使用する事ができる。

相手がコントロールするカードの効果によってこのカードが破壊され墓地へ送られた時、お互いにその攻撃力分のダメージを受ける。

聖なるバリア・ミラーフォース

通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手フィールド上に存在する攻撃表示モンスターを全て破壊する。

SATURNは浮遊している巨大な両腕をチェインソーの顎を持つ昆虫に叩きつけようとするがその一撃は聖なるバリアに防がれ、その衝撃を跳ね返されSATURNの身体にヒビが入り、その巨体が爆発する。

「……な、なんですと!?!」LP40000

爆発によって発生した煙のソリッドヴィジョンに包まれる中試験官はデュエル終了のブザーが鳴り響くのを聞き、直後自らのライフポイントがゼロになっている事に気づいて声を上げた。すると煙の向こうからアルフの声が聞こえてくる。

「SATURNの効果です。SATURNには相手がコントロールするカード効果によって破壊され墓地へ送られた時、お互いのプレイヤーはその攻撃力分のダメージを受けるという効果があるんです

よ」

「し、しかし！ SATURNの攻撃力は2800、私のライフは4000なのでダメージを受けたとしても1200残ります！ そもそもそのダメージを受けたらライフポイントが0になり敗北するのは残りライフが2050であるあなたではないですか！？」

アルフの説明を聞いた試験官は驚愕の声でそう叫ぶ。そして煙が消えていきアルフの姿が試験官の目に映る。彼のフィールドには一枚のカードが翻っていた。

「SATURNが破壊され効果が発動した時リバースカードを発動しました。カウンタートラップ「地獄の扉越し銃」、その効果はダメージを与える効果が発動した時、そのダメージを相手に与える。これにより僕が受けるはずだったダメージ2800が丸ごと先生に移り、先生は2800×2、つまり5600のダメージを受けたというわけです」

地獄の扉越し銃

カウンター罠

ダメージを与える効果が発動した時に発動する事ができる。自分が受けるその効果ダメージを相手に与える。

「な、なんという恐ろしいコンボ……」

「これが僕の必殺即死コンボ、ダブル・インパクト。じゃ、僕の勝ちですね。ありがとうございました」

アルフの説明を聞いた試験官は顔をしかめながらそう呟き、アルフは不敵な笑みを浮かべて説明を終えるのにこつと無邪気な微笑みを浮かべて続けてぺこりと頭を下げ、デュエル場を降りていった。そしてアルフはライ達の待つ席へと戻る。

「よっ。久しぶりに見たな、ダブル・インパクト」

「まさかいけるとは思わなかったけどね。やっぱりこのコンボ決まると気持ちいいや」

ライの言葉にアルフはあははと笑いながら返して席に座る。と次にエルフィが口を開いた。

「さて、私とアルフが勝ったんだから後はライだけよ。一人だけ不合格になるなんて止めてよね？」

「分かってるって」

エルフィの言葉にライが笑いながら返していた時、放送が聞こえだす。

「受験番号65番!」

「お、来た来た、んじゃ行ってきまーす」

それを聞いたライは自分の受験票を確認するとヒラヒラと手を振って言いながら席を立ち、デュエル場へと向かう。

「受験番号65番、空時ライ! よろしくお願いします!」

「空時……すまないが、君には兄弟がいるかな？」

ライが元気良く名乗ると試験官が尋ね、それにライはうんと頷いた後気づいたように笑う。

「ああ、先生エルフィとアルフの相手をした人だよね？ アルフは俺の双子の弟で、エルフィは幼なじ……従姉弟なんだ」

「なるほど……面白い偶然もあるものだ」

「へへへっ、んじゃ空時三人三連勝といかせてもらいますね！」

「そうはいかない！ 今出来る全力でかかってきなさい、私も今出来る全力でそれを撃ち砕く！」

ライの説明を聞いた試験官は納得したように頷き、ライはへへと笑いながらそう返す。しかし試験官もふつと笑ってそう言う二人はニヤリと笑い合ってデュエルディスクを展開する。

「デュエル……！」

そして二人の声が響き渡り、直後カードをドロしたのはライだった。

「先攻はもらうね！ ドロー……俺は「クリッター」を守備表示で召喚し、カードを一枚セットしてターンを終了します」

クリッター 守備力：600

クリッター

効果モンスター

星3 / 闇属性 / 悪魔族

攻1000 / 守600

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力1500以下のモンスター1体を手札に加える。

ライの場に三つ目で毛むくじらの悪魔が姿を現し、その後ろに一枚のカードが伏せられる。それから彼はターンを終了した。

「私のターン、ドローです。私は「ゴ布林突撃部隊」を攻撃表示で召喚し、バトルフェイズに入ります！ ゴ布林突撃部隊でクリッターを攻撃！」

ゴ布林突撃部隊 攻撃力：2300

ゴ布林突撃部隊

効果モンスター

星4 / 地属性 / 戦士族

攻2300 / 守0

このカードは攻撃した場合、バトルフェイズ終了時に守備表示になり、次の自分のターンのエンドフェイズ時まで表示形式を変更する事ができない。

「ちつ……墓地に送られたクリッターの効果発動！ このカードが墓地に送られた時、デッキから攻撃力1500以下のモンスターを一体手札に加える。俺は「魔轟神ガルバス」を手札に加える！」

魔轟神ガルバス

効果モンスター

星4 / 光属性 / 悪魔族

攻1500 / 守800

手札を1枚墓地へ捨てて発動する。

このカードの攻撃力以下の守備力を持つ、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を破壊する。

「ふむ……バトルフェイズ終了時にゴブリン突撃部隊は守備表示に変更となります。私はリバーズカードを二枚セットして、ターンを終了します」

ゴブリン突撃部隊 守備力：0

「っと待った！ その前のエンドフェイズにリバーズカードオープン速攻魔法「終焉の焰」！ 俺の場に黒焰トークンを二体特殊召喚する！ このトークンは闇属性モンスター以外の生贄召喚の生贄には出来ない」

黒焰トークン×2 守備力：0

終焉の焰

速攻魔法

このカードを発動するターン、自分は召喚・反転召喚・特殊召喚する事はできない。

自分フィールド上に「黒焰トークン」（悪魔族・闇・星1・攻/守0）2体を守備表示で特殊召喚する。

このトークンは闇属性モンスター以外のアドバンス召喚のためにはリリースできない。

「なるほど、改めてターンを終了します」

「俺のターン、ドロー！そして二体の黒焰トークンを生贄に捧げる！」

試験官はライの場で小さく燃える黒い焰の悪魔を見るとふむと頷いてターンを終え、それを聞いたライは力強くカードをドローした後間髪入れずにそう宣言する。それと同時に黒い焰がさらに巨大な黒い球体に吸い込まれ、球体も炎を放ち始める、それはまるで小さな黒き太陽のように。

「汝は没する事無く、無限に出づる至高の太陽！闇より昇れ！！

「The supremacy SUN」！！！！」

The supremacy SUN 攻撃力：3000

The supremacy SUN

効果モンスター

星10/闇属性/悪魔族

攻3000/守3000

このカードはこのカードの効果でしか特殊召喚できない。

フィールド上に表側表示で存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた場合、次のターンのスタンバイフェイズ時、手札を1枚捨て

る事で、このカードを墓地から特殊召喚する。

ライの口上と共に黒い太陽の中から太陽の名を冠する悪魔がその姿を現し、ライのフィールドに降り立つ。

「いくぜ、SUNでゴブリン突撃部隊を攻撃、ソーラー・フレア！」

「この瞬間、リバーズカードを発動します！ トラップ発動「聖なるバリア ミラーフォース」！ そのモンスターには消えてもらいます！」

聖なるバリア・ミラーフォース
通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手フィールド上に存在する攻撃表示モンスターを全て破壊する。

「うおおおおっ！！？？」

SUNの放った太陽の炎は聖なるバリアに跳ね返されてSUN自身を燃やし尽くす。それにライは驚いたように声を上げた。

「つちやー、ターンエンド……」

「ふふふ、私の場に存在するモンスターはゴブリン突撃部隊のみ、そしてゴブリン突撃部隊は自身の効果により守備表示に変更された次のターンのエンドフェイズ時まで表示形式の変更は不能。それな

らは安心とでも思いましたか？ 甘いですね、そちらのエンドフェイズにリバースカード発動、永続罠「最終突撃命令」！！ フィールド上全てのモンスターは攻撃表示となる、つまりゴブリン突撃部隊も攻撃表示に変更されます！」

ゴブリン突撃部隊 攻撃力：2300

「わお……」

最終突撃命令

永続罠

このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド上に存在する表側表示モンスターは全て攻撃表示となり、表示形式は変更できない。

攻撃後の休憩状態、守備表示へととなっていたゴブリン達は突然の突撃命令を聞いて攻撃状態へと移り、それを見たライはそう呟く。ターンは既に試験官へと移っていた。

「私のターンです、ドロー！……私は「チェインソー・インセクト電動刃虫」を攻撃表示で召喚し、バトルフェイズに入ります！ これで終わりですね、ゴブリン突撃部隊でダイレクトアタック！」

電動刃虫 攻撃力：2400

チェインソー・インセクト
電動刃虫

効果モンスター

星4 / 地属性 / 昆虫族

攻2400/守0

このカードが戦闘を行った場合、ダメージステップ終了時に相手プレイヤーはカード1枚をドローする。

「ぐうっ！！」だが、手札の「冥府の使者ゴーズ」の効果発動！

俺の場にカードが存在しない時に相手のカードによってダメージを受けた時、手札から特殊召喚する！そして戦闘ダメージを受けた事による特殊召喚の場合受けた戦闘ダメージと同じ数値の攻撃力・守備力を持つカイエントークンを特殊召喚する！冥府より現れろ、ゴーズ！カイエン！」LP4000 1700

冥府の使者ゴーズ 攻撃力：2700

冥府の使者カイエントークン 攻撃力：？ 2300

冥府の使者ゴーズ

効果モンスター

星7/闇属性/悪魔族

攻2700/守2500

自分フィールド上にカードが存在しない場合、

相手がコントロールするカードによってダメージを受けた時、

このカードを手札から特殊召喚する事ができる。

この方法で特殊召喚に成功した時、受けたダメージの種類により以下の効果を発動する。

戦闘ダメージの場合、自分フィールド上に「冥府の使者カイエントークン」

（天使族・光・星7・攻/守？）を1体特殊召喚する。

このトークンの攻撃力・守備力は、この時受けた戦闘ダメージと同じ数値になる。

カードの効果によるダメージの場合、
受けたダメージと同じダメージを相手ライフに与える。

「ふむ。ならば……電動刃虫でカイエントークンを攻撃します!」

「ちっ、電動刃虫の効果によりダメージステップ終了時にカードを
一枚ドロー」LP1700 1600

「バトルフェイズ終了、ゴブリン突撃部隊は自身の効果により守備
表示になりますがその直後最終突撃命令の効果により攻撃表示に変
更されます。私はリバースカードを一枚セットしてターンを終了し
ます」

「俺のターン、ドロー!」

試験官はリバースカードを一枚セットするとターンを終え、それを
聞いたライはカードをドローする。するとライはデュエルディスク
を縦に構えてにやりと笑った。

「太陽は一度沈んでも次の日にはまた昇る。それはSUNにも受け
継がれているんだ」

「なんですと!?!」

「SUNの効果発動! 破壊された次のスタンバイフェイズ、手札
を一枚捨てる事により、このカードは墓地から特殊召喚される!
再び立ち昇れ、「The supremacy SUN」!」

The supremacy SUN 攻撃力:3000

ライが手札を一枚捨てると共にフィールドに再び黒い太陽が浮かび上がり、その中からSUNが姿を現しフィールドへと降り立つ。

「まだまだ！ 俺は「魔轟神ガルバス」を攻撃表示で召喚し、手札を一枚捨ててガルバスの効果発動！ ガルバスの攻撃力以下の守備力を持つ、相手フィールド上の表側表示モンスター一体を破壊する。守備力0の電動刃虫を破壊！」

魔轟神ガルバス 攻撃力：1500

「ぐうつ！！」

ライの場に現れた悪魔は手に持っていた棘付き鉄球の鎖を振り回し、鉄球を電動刃虫に叩きつけ押し潰す。

「いくぜ、冥府の使者ゴーズでゴブリン突撃部隊に攻撃！」

「ぐうつ！！」LP4000 3600

「さらに、魔轟神ガルバスでダイレクトアタック！」

「ぐうつ！！」LP3600 2100

冥府の使者が手に持っていた剣一本でゴブリンの部隊を殲滅し、そこにガルバスが試験官目掛けて鉄球を叩きつける。

「これでトドメ！ SUNでダイレクトアタック！！ ソーラー・フレア！！！！」

「ぐおおおおおっ！！！」LP21000

ライの指示と共に放たれた光線が試験官に止めをさし、デュエル終了を示すブザーが鳴り響いた。

「っしやー！ 空時三人三連勝達成！ ありがとうございます！」

ライは右手を掲げてそう叫び、ぺこりと頭を下げてお礼を言ってからデュエル場を降り、席へと戻っていく。

「いえーいつ！ 三連勝達成だな！」

「全くもう、ゴーズがあるとは思ってたけど冷や冷やしたよ」

「もしゴブリンをリリ……生贄に偉大魔獣ガーゼットでも召喚されたらどうするつもりだったの？」

「ま、そこはそれ。実は手札にクリボーいたから、万が一があっても一回は耐えられる計算だったよ」

ライの能天気な声にアルフとエルフィはため息混じりに返し、エルフィの言葉にライはたはたと笑ってそう返す。それから三人が色々と話していると突然聞こえてきた声が耳に入る。

「いけ、フレイム・ウィングマン！ 古代の機械巨人に攻撃！ スカイスクレイパー・シュート！」

「マンマミーヤ！ 私が古代の機械巨人が！！！」

「「「あ!!!」」」

話し込んでいたせいで十代が来ていたのに気づいていなかったどころかデュエルすら見逃していた。三人が気づいた時には既にデュエルは終了、十代はいえーいっとガッツポーズを取っていた。

「あっちゃー……うっかりしてたね」

「不覚だったわ。話に夢中で周りの気配に気を回すの忘れてた」

「ま、しょうがないだろ。原作通り勝った事だし多分皆合格だろ、十代と話すのはアカデミアに入ってからにしようぜ」

アルフの言葉にエルフィが残念そうに言うと言いつつライは両手を後ろに回しながら続ける。それから三人は入学実技試験終了のアナウンスを聞くと試験場を後にし、家に帰っていった。

第一話 入学試験デュエル（後書き）

第一話は入学試験デュエル、ちなみにこの小説にはGX世界観ながらシンクロが普通に出ます。理由はメリオルがカードデザイナーとしてインダストリアル・イリユージョン社に入社しているため。ちなみにスターダストやレッド・デーモンズのような5D'sの特別なカードは自重しますがZEXALのキーカードことNo.1は一切の自重無く使用する予定なのでご了承ください。

……にしても疲れた……流石に第一話から三連戦はきつい……。

レオ「しかも試験官は全員一緒という手抜き具合」

三人も思いつかねえもん、攻撃力の高いモンスターでビートダウン、分かりやすいでしょ？ さあ次回から学園生活のスタートです。

レオ「さあ今回はどんなプレイングミスをしてるかな？」

しつさえよ!!! ま、まあ、それでは！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4694z/>

遊戯王GX～パラレル・トラベラー～

2011年12月15日22時45分発行